■ 専任教員 スポーツ健康学研究科 (2023年度)

研究科長
平野 裕一 教授
(ひらの ゆういち)

修士課程
博士後期課程

専門領域：スポーツバイオメカニクス, トレーニング科学
研究領域：投打動作の分析, 発育期のスポーツ活動
担当科目：スポーツ運動学特論, スポーツバイオメカニクス特論,
スポーツ健康学高度開発特論C (コーチング領域)

主な業績・著書：著書：打つ科学、スポーツバイオメカニクス、運動指導の科学、科学する野球・平野裕一：「野球選手にみられる障害」、宮下充正編「疲労と身体運動」、杏林書院、東京、pp84-91、2018。
論文：・設楽佳世、勝亦陽一、熊川大介、池田達昭、平野裕一：ジュニアアスリートにおける体幹筋断面積の年齢差および種目競技差：シニアアスリートとの比較から、体力科学、66(1):87-100,2017。
・勝亦陽一、設楽佳世、飯田悠佳子、鳥居俊、高井洋平、平野裕一：中学生期におけるトップ野球選手の成熟度。発育発達研究、74:26-33,2017。
・星川雅子、内田直、平野裕一：日本トップアスリートの海外遠征とコンディショニング-質問紙調査の結果から-。日本臨床スポーツ医学会誌、25(3):435-444,2017。
・熊野陽人、大沼勇人、平野裕一：走幅跳の競技前に行う全力走が助走および跳躍距離に与える即時的影響。トレーニング科学、29(1):23-31,2017。
・勝亦陽一、設楽佳世、熊川大介、袴田智子、中里浩介、池田達昭、平野裕一：日本人男性一流競技者における除脂肪量指数(FFMI)および脂肪量指数(FMI)の競技種目差。トレーニング科学、29(4):317-327,2018。
学会活動：日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本トレーニング科学会、野球科学研究会

修士課程
修士課程(補)
博士後期課程
博士後期課程(補)

… 修士課程研究指導担当
… 修士課程研究指導補助担当
… 博士後期課程研究指導担当
… 博士後期課程研究指導補助担当

安藤 正志 教授
(あんどう まさし)

修士課程

専門領域：運動療法, リハビリテーション, スポーツ障害, 運動器疾患の評価と治療
研究領域：徒手療法、中高年者の運動療法、リハビリテーション医学
担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, 運動器疾患特論

主な業績・著書：出版：標準徒手医学、運動学実習、運動器疾患の理学療法
論文：運動器疾患によるトリガーマッピングの紹介。標準徒手医学会誌 1.11-15, 2018。
徒手の軟部組織刺激が可動域に及ぼす影響。標準徒手医学会誌 1.20-24,2014。
徒手の軟部組織刺激が筋断性に及ぼす影響。標準徒手医学会誌 1-15-19,2014。
遠心性収縮ストレッチング法による関節可動域改善の即時的効果。標準徒手医学会誌 1.6-9, 2014。軟部組織性可動域制限における短縮性障害と伸縮性障害の発生率。
日本スポーツリハビリテーション学会誌。7.29-23,2018。
伸縮性テープが疼痛緩和と可動域に及ぼす影響。日本スポーツリハビリテーション学会誌。7,25-29, 2018. など
学会活動：理学療法科学学会、日本スポーツリハビリテーション学会、標準徒手医学会、ドイツ徒手医学、日本理学療法士協会、など

泉 重樹 教授
(いずみ しげき)

修士課程
博士後期課程

専門領域：アスレティックトレーニング, スポーツ医学, 鍼灸学
研究領域：体幹の機能とエクササイズ評価, スポーツ外傷・障害予防,
スポーツ鍼灸
担当科目：研究デザイン・フィロソフィー、アスレティックトレーニング特別演習
スポーツ健康学高度開発特論 A (ヘルス領域)

主な業績・著書：Shigeki IZUMI, Koji KANEOKA, Toshikazu MIYAMOTO, Yu OKUBO, Shumpei MIYAKAWA: Electromyographic and Kinematic Trunk Analysis of Boxing during a Dominate Straight Punch. Bulletin of Sports and Health Studies Hosei University. 9,65-72,2018。
Shigeki Izumi, Yasuhisa Kaneko, Hinata Sakuraba, Hiroshi Kondo: Does the muscle output of an antagonist improve by inserting needles in an agonist?. International Conference of World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies Tokyo/Tsukuba 2016, Tsukuba. 2016/11/5-6。
Shigeki Izumi, Kotoko Shirakawa, Naoki Taguchi, Yuki Kasugai: Muscle activity of lower extremities and the trunk while doing squats with ViPR. European College of Sports Science, Vienna. 2016/7/7-9
学会活動：European College of Sports Science, 日本臨床スポーツ医学会, アスレティックトレーニング学会, 日本体力医学会, 全日本鍼灸学会

修士課程
博士後期課程(補)

伊藤 真紀 准教授
(いとう まき)

修士課程

専門領域：スポーツマネジメント
研究領域：スポーツにおけるリーダーシップ, アスリートのキャリア構築, 女性スポーツ
担当科目：研究デザイン・フィロソフィー、スポーツ健康学特論Ⅲ (人文社会科学),
スポーツ組織構造特論, スポーツフィールドスタディー演習,
スポーツ健康学高度開発特論 B (マネジメント領域)

主な業績・著書：1. Choi, C., & Kang, S. J., & Itoh, Maki. (2019). A comparison Study Examining Academic Motivation and Commitment Levels of College Students: In Sport Management Major a Truly Unique Model? The Korean Society of Sports Science 28(5), pp663-674.
2. Itoh, M., Akiko, N., Ogasawara, E., & Hums, M.a. (2018). Realizing Identity and Overcoming Barriers: Factors Influencing Female Japanese Paralympians to Become Coaches. International Journal of Sport and Health.
3. Itoh, M., Bower, G.G., & Hums, M.A. (2017). Career experiences of women working in Paralympic sport organizations internationally. Advancing Women in Leadership, 37,20-28.
4. Itoh, M., & Hums, M.A. (2016). Why do women work in the management of professional baseball? In B. Pitts & J.Zhang (eds.). Global sport management(pp. 135-150). London: Taylor & Francis.
学会活動：北米スポーツマネジメント学会, 日本スポーツマネジメント学会

井上 尊寛 准教授
(いのうえ たかひろ)

修士課程

専門領域：スポーツマネジメント, スポーツマーケティング, スポーツ消費者行動
研究領域：スポーツ観戦者の観戦行動, プロスポーツクラブのマーケティング戦略
担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ産業学特論,
スポーツマーケティングリサーチ演習

主な業績・著書：リーグ観戦者調査
・よくわかるスポーツマーケティング (ミネルヴァ書房)
・スポーツ白書2017 (笹川スポーツ財団)
・The relationship between perceived social media marketing activities of J. League clubs and behavior intention of spectators. Asian Sports Management Review volume 11, Asian Association for Sport Management.
・フィギュアスケート観戦のプロダクト構造：競技的要素に着目して、スポーツマネジメント研究、第8巻、1号。
学会活動：日本スポーツマネジメント学会, 北米スポーツマネジメント学会(NASSM)

修士課程

小田 佳子 教授
(おだ よしこ)

修士課程

専門領域：スポーツ哲学, 体育科教育
研究領域：武道の国際化と文化変容, スポーツ教育, 武道論 (剣道)
担当科目：研究デザイン・フィロソフィー

主な業績・著書：『日韓「剣道」KENDOとKUMDOの相克と未来』(単著, 青弓社, 2017)
『データでみるスポーツとジェンダー』(共著, 日本スポーツとジェンダー学会編, 2016)
『これならできる剣道』(共著, 全国教育系大学剣道連盟編, 2014)
日本剣道KENDOと韓国剣道KUMDOにおける指導者の「剣道の価値」に関する調査 研究 (単著, 体育・スポーツ哲学研究43-1:23-35, 2021)
日本の体育・スポーツにおける武(士)道的性格 (単著, 体育史研究38 シンポジウム報告, 2020)
剣道は日本固有の文化なのか? (単著, 学校体育研究同志会, たのしい体育・スポーツ2020 年秋号:48-53, 2020)
学校現場において教師が有する「体罰」に関する現実的課題 (単著, 体育科教育研究30-1: 69-74, 2014)
Yoshiko Oda & Yoshitaka Kondo, The Concept of Yuko-Datotsu in Kendo : Interpreted from the Aesthetics of Zanshin, (Sport, Ethics & Philosophy 8-1:3-15, 2014)
学会活動：日本体育学会, 日本体育・スポーツ哲学学会, IAPS国際スポーツ哲学学会, 日本武道学会, 日本スポーツ教育学会, 日本スポーツとジェンダー学会,

越智 英輔 教授

(おち えいすけ)

修士課程

博士後期課程

専門領域：運動生理学, 応用健康科学

研究領域：運動や栄養介入による骨格筋・血液の応答・適応変化に関する研究

担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, 健康体力学特論,
スポーツ健康学高度開発特論 A (ヘルス領域)

主な業績・著書：Ochi E, Ueda H, Tsuchiya Y, Kouzaki K, Nakazato. Eccentric contraction-induced muscle damage in human flexor pollicis brevis is accompanied by impairment of motor nerve. Scand J Med Sci Sports. 2020; 30(3):462-471.

Morishima T, Tsuchiya Y, Iemitsu M, Ochi E. High-intensity resistance exercise with low repetitions maintains endothelial function. Am J Physiol Heat Crit Physiol Physiol. 2018;315(3): H681-H686.

Kikuchi N, Tsuchiya Y, Nakazato K, Ishii N, Ochi E. Effects of the ACTN3 R577X genotype on the muscular strength and range of motion before and after eccentric contractions of the elbow flexors. Int J Sports Med. 2018;39(2):148-153.

Tsuchiya Y, Yana-gimoto K, Nakazato K, Hayamizu K, Ochi E. Eicosapentaenoic and docosahexaenoic acids-rich fish oil supplementation attenuates strength loss and limited joint range of motion after eccentric contractions: a randomized, double-blind, placebo-controlled, parallel-group trial. Eur J Appl Physiol. 2016; 116(6):1179-88.

Ochi E, Nosaka K, Tsutaki A, Kouzaki K, Nakazato K. Repeated bouts of fast velocity eccentric contractions induce atrophy of gastrocnemius muscle in rats. J Muscle Res Cell Motil. 2015;36(4-5):317-27.

学会活動：日本体力医学会, 日本運動・スポーツ科学学会, American College of Sports Medicine, European College of Sport Science, American Physiological Society

苅部 俊二 教授

(かるべ しゅんじ)

修士課程

専門領域：スポーツコーチング学, スポーツ心理学

研究領域：身体運動とイメージ

担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, スポーツコーチング学特論

主な業績・著書：陸上スプリント上達のポイント50 コツがわかる本 (メイツ出版),
こどもチャレンジ第2シリーズ (はじめよう! 陸上競技 (ベースボール・マガジン社)
多様な思考法に基づくコーチング (2019) 培風館, pp63-72.

学会活動：日本体育学会, 日本スプリント学会, 日本陸上競技学会, 日本スポーツ心理学会,
日本コーチング学会

鬼頭 英明 教授

(きとう ひであき)

修士課程

博士後期課程

専門領域：学校保健, 健康教育, 公衆衛生

研究領域：健康教育, 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育, 性教育, 保健管理

担当科目：学校保健学特論, スポーツ健康学高度開発特論 A (ヘルス領域)

主な業績・著書：健康教育の理論と実践—わが国と外国の事例をもとに—, 2018. 学校保健の動向, 日本学校保健会,
2018. 学校保健マニュアル, 南山堂, 2019.

教育の危機管理 (週刊教育資料) 年4回程度.

中学校学習指導要領による医薬品に関する授業実践研究, 上田裕司, 鬼頭英明, 西岡伸紀, 富岡剛,
学校保健研究, 55, 220-227, 2013.

慢性疾患のある児童生徒が学校生活を送るための効果的な支援のあり方, 小児保健研究, 73, 860-
868, 2014.

危険ドラッグも視野に入れた薬物乱用防止教育のあり方, 鬼頭英明, 公衆衛生, 79, 250-254, 2015.

学会活動：日本学校保健学会, 日本健康教育学会, 日本教育実践学会, 日本トキシコロジー学会,
日本小児保健学会, 日本教科教育学会

木下 訓光 教授

(きのした のりみつ)

修士課程

専門領域：スポーツ医学, 循環器病学

研究領域：スポーツ心臓, アスリートの突然死, 運動処方, 生活習慣の運動療法,
持久系スポーツの医科学, アスリートの体組成・エネルギー代謝

担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ健康学特論 II (自然科学)

主な業績・著書：Uchiyama E, Kinoshita N, Okuyama K. Tracking body composition change with weight loss by BIA and DXA in female adolescent runners: a validation study. (Exercise, Sport, and Movement. 2023;1(2):e00003).

Kinoshita N, Uchiyama E, Ishikawa-Takata K, Yamada Y, Okuyama K. Association of energy availability with resting metabolic rates in competitive female teenage runners: a cross-sectional study. (J Int Soc Sports Nutr. 2021;18(1):70).

Kinoshita N, Fukuda R. Secular trend in thinness prevalence for 26 years(1989-2014) among high school runners in Japan. (Asian J Sports Med. 2016;7(4): e35970).

Kinoshita N, Katsukawa F, Yamazaki H. Modeling of longitudinal changes in left ventricular dimensions among female adolescent runners. (PLoS One. 2015;10(10):e0140573).

Pelliccia A, Kinoshita N, Piccchio C, et al. Long-term clinical consequences of intense, uninterrupted endurance training in Olympic athletes. (J Am Coll Cardiol 2010;55: 1619).

Kinoshita N, Onishi S, Yamamoto S, et al. Unusual left ventricular dilatation without functional or biochemical impairment in normotensive extremely overweight Japanese professional Sumo wrestlers. (Am J Cardiol 2003; 91:699).

学会活動：日本内科学会, 日本臨床スポーツ医学会 (代議員), 日本循環器学会, 日本医師会,
日本体力医学会 (評議員), 日本糖尿病学会, American College of Sports Medicine,
European College of Sport Science

島本 好平 准教授

(しまもと こうへい)

修士課程

博士後期課程

専門領域：ライフスキルコーチング, 体育・スポーツ心理学

研究領域：アスリート等に対するライフスキルコーチングに関する研究

担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, スポーツ健康学特論 I (心身科学),
健康心理学特論

主な業績・著書：島本好平・石井源信 (2006) 大学生における日常生活スキル尺度の開発. 教育心理学研究,
54 (2) : 211-221.

島本好平・石井源信 (2010) 運動部活動におけるスポーツ経験とライフスキル獲得との因果関係の
推定. スポーツ心理学研究, 38 (2) : 89-99.

島本好平ほか (2013) アスリートに求められるライフスキルの評価. スポーツ心理学研究, 40 (1) :
13-30.

島本好平・米川直樹 (2014) 高校生ゴルフ競技者におけるライフスキルと競技成績との関連. 体育
学研究, 59 (2) : 817-827.

島本好平・山本浩二 (2018) 心理社会的な成長につながる気づきのライフスキル獲得への影響. 大
学体育学, 15 : 63-71

学会活動：日本体育学会, 日本コーチング学会, 日本スポーツ心理学会, 日本体育科教育学会, 日本武道学会

瀬戸 宏明 教授

(せと ひろあき)

修士課程

専門領域：スポーツ医学, 整形外科

研究領域：運動器傷害に対する予防と再生について

担当科目：スポーツ健康学特論 II (自然科学)

主な業績・著書：Seto H, et al. Distinct roles of Smad pathways and p38 pathways in cartilage-specific gene expression in synovial fibroblasts. The Journal of Clinical Investigation. 2004.Sep; 13(5):718-726.

Nagano M, Seto H, et al. Headless compression screw fixation of jones fractures: an outcomes study in Japanese athletes. Am J Sports Med 2012 40(11):2578-2582.

Hada S, Seto H, et al. Accelerated return to play for professional rugby players after facial fractures. Journal of Craniofacial Surgery. 2019 30(4), 1121-1124.

瀬戸宏明; 泉重樹; 平野祐貴. 大学サッカー部に対するJones骨折健診の経験. 法政大学スポーツ健康学研究, 2019, 10: 9-14.

女子バスケットボール選手の リバウンド動作時における下肢キネマティクス, 日本臨床スポーツ医学会誌, 2021 (29) 2 : 260-267

学会活動：日本整形外科学会, 臨床スポーツ医学会, 日本整形外科スポーツ医学会, International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine, Japanese Orthopaedic Society of Knee, Arthroscopy and Sports Medicine

高見 京太 教授

(たかみ きょうた)

修士課程

専門領域：運動生理学, 発育発達学

研究領域：子どもの健康・体力づくり, 人馬のウェルビーイング

担当科目：発育発達学特論

主な業績・著書：幼稚園における運動遊びが幼児体力テストの結果に及ぼす影響. 法政大学スポーツ健康学研究1, pp
45-49, 2010.

幼稚園における任意の運動遊びプログラムへの参加状況と幼児体力テストの結果との関係. 法政大学
スポーツ健康学研究2, pp. 1-6, 2011.

「人馬のウェルビーイング」への取り組み, 現代福祉研究22, pp109-115, 2022

学会活動：日本体力医学会, 日本体育学会, 日本発育発達学会, American College of Sports Medicine
ほか

永木 耕介 教授

(ながき こうすけ)

修士課程

博士後期課程

専門領域：スポーツ教育学

研究領域：教材文化論, 武道教育論

担当科目：スポーツ教育学特論,

スポーツ健康学高度開発特論 C (コーチング領域)

主な業績・著書：「嘉納柔道思想の継承と変容」(単著、風間書房、2008)、「現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか—オリンピック・体育・柔道の新たなビジョン—」(共著、ミネルヴァ書房、2014)、「よくわかるスポーツ倫理学」(共著、ミネルヴァ書房、2017)、「柔道授業における心理社会的学習成果評価尺度の開発」(共著、体育学研究 Vol. 62, No.1, pp. 323-337. 2017)、「The Legacy of Kano Jigoro: Judo and Education」(共著、JAPAN LIBRARY, 2020)
学会活動：体育学会、武道学会、スポーツ教育学会、体育科教育学会ほか

中澤 史 教授

(なかざわ ただし)

修士課程

博士後期課程

専門領域：スポーツ心理学

研究領域：アスリートのメンタルサポート, チームビルディング, 体育授業・運動部活動の心理学

担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, スポーツメンタルトレーニング演習, スポーツ健康学高度開発特論 C (コーチング領域)

主な業績・著書：「スポーツ心理学の挑戦—その広がりと深まり」(分担執筆, 大修館書店, 2023)「アスリートの心理学」(単著, 日本文化出版, 2016)「スポーツメンタルトレーニング教本・三訂版」(分担執筆, 大修館書店, 2016)「アスリートの心の強化法：指導者・選手のためのメンタルトレーニングの理論と方法」(DVD監修, ティアンドエイチ(株), 2016)「新版TEG II 活用事例集」(分担執筆, 金子書房, 2009)「ジュニアスポーツの心理学」(共訳, 大修館書店, 2008) 他
学会活動：日本スポーツ心理学会, 日本交流分析学会, 日本心理学会, 日本質的心理学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, Asian-South Pacific Association of Sport Psychology, 他

Nemes Roland 専任講師

(ねめしゅ ろーらんど)

修士課程(補)

専門領域：コーチング学, 指導方法, 体育方法学, ハンドボール

研究領域：コーチング学, トップレベル選手の育成・GCA (Game Centred Approach) メソッド

担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, スポーツトレーニング学特論

主な業績・著書：Nemes R., Roland N., 曾田宏：ハンドボールにおけるハンドボールの一貫指導システム：7歳から12歳までの指導プログラムに着目して。ハンドボールリサーチ, 1:31-39, 2012.
Roland Nemes: Scoring efficiency development of two Japanese U21 national players, regarding 1:1 with the goalkeeper. European Handball Federation Master Coach thesis, 2014.
長野翔大, Nemes R., 藤本元, 曾田宏：ハンドボール競技における強豪国と日本の一貫指導プログラムに関する比較研究。コーチング学研究 第30巻第2号, 109-123, 2017.
Miller A, Harvey S, Morley D, Nemes R, Janes M, Eather N: Exposing athletes to playing form activity: outcomes of a randomized control trial among community netball teams using a game-centred approach. Journal of Sport Sciences, 35:1846-1857, 2017-18
学会活動：日本体育学会, 日本コーチング学会, 日本ハンドボール学会

林 容市 准教授

(はやし よういち)

修士課程

博士後期課程

専門領域：体力学, 生理心理学

研究領域：身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御, 生理的状態と心理的情報の対応, 種々の身体パフォーマンスに関する体力の測定・評価

担当科目：スポーツ健康学高度開発特論 C (コーチング領域)

主な業績・著書：業績：林容市 他, 就学段階ごとの運動経験が大学生における把握の調整力に及ぼす影響, 体育測定評価研究 18, 35-46, 2019; 運動経験によるグレーディングの変化, 体力の科学67 (12): 820-825, 2017 等
著書：「エクササイズ科学—健康体づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践—(田中喜代次他)」, 2011; 「健康づくりのための体力測定評価法(田中喜代次他)」, 2007 等
学会活動：日本体育学会, 日本体力医学会, 日本体育測定評価学会, American College of Sports Medicine, 他

望月 拓実 専任講師

(もちづき たくみ)

修士課程

専門領域：スポーツマネジメント, スポーツ経営学

研究領域：eスポーツのマネジメント, ダンスのマネジメント, 学生のスポーツライフ

担当科目：スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会学)

主な業績・著書：望月拓実 (2022)e スポーツにおけるビジネスモデル構造把握に関する基礎的研究—他スポーツへの適用可能性の検討—国際研究論叢 35 巻 3 号 pp.251-264
望月拓実 (2021) 我が国に求められる e スポーツ研究：文献レビューによる検討, 国際研究論叢 34 巻 2 号 pp.75-96
望月拓実ほか (2021) 大学生のスポーツライフの実態からみる生涯スポーツ普及に向けた課題の検討, 体育・スポーツ経営学研究 第 34 巻 1 号 pp.45-63
望月拓実, 作野誠一 (2019)“現代的なリズムのダンス”授業における教授方略に関する研究—指導案と学習指導要領の再検討から—, スポーツ科学研究 Vol.16 pp.34-48
望月拓実 (2017) 民間スポーツクラブにおけるダンスプログラムの特性に関する研究—キッズダンスプログラムに着目して—, 日本体育学会体育経営管理専門領域体育経営管理論集第 9 巻 pp.15-31
学会活動：日本体育・スポーツ・健康学会, 日本体育・スポーツ経営学会

山本 浩 教授

(やまもと ひろし)

修士課程

専門領域：コミュニケーション論, ジャーナリズム論

研究領域：スポーツの構造, スポーツ報道

担当科目：スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学), スポーツジャーナリズム特論 主な

業績・著書：ワールドカップのメディア学(共著/大修館書店 2003年), NHKアナウンスセミナー(共著/NHK 出版 2005年), メキシコの青い空(新潮社 2007年), 実況席のサッカー論(共著/出版芸術社 2007年), 続・実況席のサッカー論(共著/出版芸術社 2009年), よくわかるスポーツ文化論(共著/ミネルヴァ書房 2012年), スポーツアナウンサー〜実況の真髄〜(岩波書店 2015年), 21世紀スポーツ大事典(共著/大修館書店 2015年), 放送席から見た日本代表の進化論(祥伝社2017年), 「羅針盤」山陰中央新報隔月コラム
学会活動：日本体育学会, DGPUK- Deutsche Gesellschaft für Publizistik- und Kommunikationswissenschaft, DGzPRsport e. V.

吉田 政幸 教授

(よしだ まさゆき)

修士課程

博士後期課程

専門領域：スポーツマネジメント, スポーツマーケティング

研究領域：スポーツ消費者のソーシャルキャピタル, スポーツレガシー尺度の開発, スポーツにおけるコンシューマー・エクスペリエンス

担当科目：研究デザイン・フィロソフィー, スポーツマネジメント特論, スポーツ消費者行動特論, スポーツ消費者行動特論, スポーツ健康学高度開発特論 B (マネジメント領域)

主な業績・著書：1.Yoshida, M., Gordon, B.S., Nakazawa, M., Shibuya, S., & Fujiwara, N.(2018). Bridging the gap between social media and behavioral brand loyalty. Electronic Commerce Research and Applications, 28(2),2018-218.
2.Yoshida, M. (2017). Consumer experience quality: A review and extension of the sport management literature. Sport Management Review, 20(5),427-442.
3.吉田政幸・仲澤真・岡村敬子・吉岡那子(2017) スポーツファンへの誇り：プロサッカーとプロ野球における検証。スポーツマネジメント研究, 9(1):3-21.
4.Yoshida, M., Heere, B., & Gordon, B.(2015). Predicting behavioral loyalty through community: Why other fans are more important than our own intentions our satisfaction, and the team itself. Journal of Sport Management, 29(3),318-333.
5.Yoshida, M., Gordon, B., Nakazawa, M., & Biscaia, R.(2014). Conceptualization and measurement of fan engagement: Empirical evidence from a professional sport context. Journal of Sport Management, 28,399-417.
学会活動：北米スポーツマネジメント学会, 日本スポーツマネジメント学会, 日本スポーツ産業学会